

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 ・仲間とともに学びに向かえる子(確かな学び) ・自分のよさを知り、人とつながり協働する子(豊かな心) ・ゆめの実現に向かって粘り強く取り組み、活力ある生活を送れる子(健やかな体)		堺市立美原中学校 校長 新田 義政
令和6年度 重点目標 1. 「総合的な学力」の育成 (1)「学びの共同体」を基にした本校独自の学び合いの創造 (2)家庭学習習慣の形成 (3)読解力の向上 2. 豊かな心の育成 (1)人権教育の推進 (2)道徳教育の推進 3. 信頼関係を基盤にした生徒指導 (1)自ら考えて正しい行動ができる生徒の育成 (2)不登校の効果的な支援 4. 特別支援教育の推進 (1)障害の状況に応じた指導の充実 (2)特別支援委員会の機能の充実 (3)個に応じた特別支援教育の充実 (4)通級指導教室との連携 (5)自立につながるICTの活用 5. 小中一貫連携の取組 (1)授業研修 (2)家庭生活習慣の改善 6. 信頼される教員の育成		

確かな学びの現状(全国学力・学習状況調査、チャレンジテストの分析より) 【国語】「読むこと」の得点率は府平均より3ポイント高く、読解の能力は高まっている。ただし、「書くこと」の得点率が依然低い。書く力をつける必要がある。無回答率0%である設問が7問あり、府平均を上回っている。問題に取り組む意欲が高いので、問題文をよく読む習慣をつけていく。 【英語】読むことに関しては府平均から大きな差がなかったが、聞くこと、書くことはともに低い結果が出た。特に書くことは他の問題と比べても無回答率が著しく高く、問題の間われていることを理解することもできていないと考えられる。 取り組んできた「読解力」はついている学年もみられる。				豊かな心・健やかな体の現状(全国学力・学習状況調査、チャレンジテストのアンケート結果より) ・朝食を毎日食べている生徒の割合が低かった。また、睡眠に関するアンケート項目についても全国平均を下回り、生活習慣に関する項目では、規則正しい生活リズムの構築に課題がある結果が出ている。自分に合った睡眠時間の確保は、生活の基本となることを指導していきたい。 ・スマートフォンを使用する時間が長く、宿題以外の家庭学習に取り組む時間が短いことを改善していく必要があり、家庭と連携できるように取り組みたい。			
--	--	--	--	---	--	--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の育成	「学びの共同体」を基にした本校独自の学び合いの創造	●全ての子どもの学びを保障する授業づくり ●学び合う同僚性のある教師集団の創造	・校内研修 ・相互授業参観 ・学校アンケート(教師用) (2)私は、子どもたちが協働的に学び合う授業を実践しようとした。(3)私は、ペア・グループ活動など対話を意識した授業を行っている。 (生徒用)(2)グループ学習は学びやすいと思う。	・授業参観シートの内容 ・学校アンケート昨年度分と比べ3%以上向上すればA,変動が上下3%以内B、3%以上下がればC	年度末	B	各教科での相互参観の実施や教科外の教師による参観も促している。	A 教師用では、(2)で5%の増加、(3)で2%の減少なのでAと評価した。生徒用では全体として4%の増加のためAと評価した。生徒はグループ学習に積極的に参加している姿が見られた。	A ・対話論証型の授業が目立っています。美中の学びの共同体は生徒が自ら課題を設定し、意見交換の中で結論を出す、社会の求める学力となっている。意欲を出させる工夫が大変だと思います。準備大変ですが、頑張ってください。 ・グループ学習や対話の授業はとても大事だと感じました。社会に出る予習にも思えました。 ・子どもも教師も学び合える学校だということが美原中の誇りだと思います。家庭学習は、次の授業が楽しくなるということを感じてもらえればよいと思います。読解力は、今後社会に出ても求められることですので、全科目を通じて強化し続けてほしいです。 ・継続して取り組まれていること、そのこと自体結構大変な労力のいることであると思います。なかなか学習に向かわせることが、一定難しい中、よくやっておられると思います。少しの向上かもしれませんが、大きな一歩になっていくだろうと思います。
		家庭学習習慣の形成	★自主学習ノートを活用した家庭学習の推進	学校アンケート(生徒用)「宿題以外に家庭学習を行っている。」各種学習調査の結果	昨年度と比べ3%以上向上すればA,変動が上下3%以内B、3%以上下がればC	年度末	B	各学年で家庭学習を促し、表彰などを行っている。	B ・家庭学習習慣については昨年度とほぼ同様の結果となった。 ・書く力については各調査で向上の結果がえられた。	B ・継続して取り組まれていること、そのこと自体結構大変な労力のいることであると思います。なかなか学習に向かわせることが、一定難しい中、よくやっておられると思います。少しの向上かもしれませんが、大きな一歩になっていくだろうと思います。
		読解力の向上	読書や授業を通しての読解力の向上(書く力の向上)	全国学力・学習状況調査、チャレンジテストの分析	分析の結果で向上が見られればA,昨年と同程度であればB、昨年より低下であればC	年度末	B	全国学力・学習状況調査では、記述式の問題の正答率が府平均を少し上回った。	A	
豊かな心・健やかな体	人権教育	本物との出会いを大切にし、多様性を認め合い、自他の尊重や、自尊感情を高める。	●「ほんものとの出会い」を通した人権学習による心の育成 ●「参加」「体験」など、子どもの発達段階に応じた指導	・教員の観察や生徒のワークシートによってみられた生徒の成長 ・学校アンケート(教師用)(6)私は、「生きた教材」「ほんもの」との出会いを通した人権授業の充実を目指し、学年(チーム)で取り組んだ。(7)私は、「道德」「人権」の授業を通して、生徒の成長を感じた。 (生徒用)(6)私は、人を傷つけるような言葉を使わないようにしている。(7)私は、「道德」「人権学習」の授業で学習していることは、自分の考えや生き方に役立ったり、影響を与えていると思う。	生徒の成長記録の内容 学校アンケートは昨年度より上がっているA、同程度B、大きく下がっているC	年度末	B	本年度のテーマとして「本物との出会いを大切に」という点から、2学期から3学期にかけて、いくつか講話を計画している。また、講話を聞くだけでなく、事前指導を行い、より深い学びに繋がる指導を行う。	B (6)(7)のアンケートでは、教師用生徒用ともに「あてはまる」が、昨年度と同様または、上がっている状況である。課題としては、「あてはまらない」や「どちらとも言えない」を全体的に減少させることである。	A ・教員が学年主任を中心にチームで取り組んだ成果が出ている。「チーム美中」ができている。生徒の生き方に影響が出ていることで、互いを思いやり、いじめの発生も防いでいると思った。教員と生徒の意識のずれは興味深い。教員の目標は高く、生徒は自己肯定感で満足しているのかも。より高みに向けてご指導をお願いします。 ・多様性を認めない現実がまだまだある中で、否定から物事を見ないような考えをこれからも指導して頂けたらと思いました。
	道德教育	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える力を養う。	「考え、議論する道德」に向けた指導・評価の工夫・改善に取り組む。	・教員の視察によってみられた生徒の成長 ・生徒の感想文 ・学校アンケート(教師用)「私は、「道德」「人権」の授業を通して、生徒の成長を感じた。」 (生徒用)「道德」「人権学習」の授業は自分の意見・考えを言いやすい雰囲気である。 (保護者用)「お子様にとって、「道德」「人権学習」の授業で学習していることは、自分の考えや生き方に役立ったり、影響を与えているように思われますか。」	生徒の成長記録の内容 アンケートは昨年度より上がっているA、同程度B、大きく下がっているC	年度末	B	内容項目に沿って、生徒の実態に応じた内容になるよう工夫しながら取り組んでいる。	B 教師アンケートでは肯定回答が昨年度より13ポイント減少しているが、生徒アンケートはどの項目も肯定回答が多く、特に「道德、人権学習の授業で学習していることは自分の考えや生き方に役立ったり、影響を与えていると思う」では、昨年同程度のポイントであるので、そのずれを解消することが次年度の課題である。	A ・内容はとても充実していると思われます。進路・進学にはすぐには役立ちにくいかもしれませんが、人生には大切なことですので、これからも前向きに進んでください。 ・この項目も着実に進められていることがわかります。心や考え方、つまりは家庭の要素も大きいので、急な変化は望めません。昨年や今年でも、ほぼ同様の状態が続いているのでAとしました。1つの取組、授業をつくるのに、教員の努力は仕事だからとばかりで、片づけられるものではない側面がたくさんあります。その心の内容は、そういったものも含みます。これからも内容や思いにこだわってがんばってください。
信頼関係を基盤にした生徒指導	積極的な生徒指導	自ら考えて正しい行動ができる生徒の育成	指導の場面では、生徒に考えさせる、生徒リーダーの育成。	・学校アンケート(生徒用) (12)私は「いじめは絶対に許されることではない」と考えている。 (13)私は社会のマナー(ポイ捨てをしない等)や交通ルールを守っている。(14)私は「学校のきまり」に違反して、先生に注意されることはない。 ・年間の校内暴力件数0を目指す。	昨年度と比べ3%以上向上すればA,変動が上下3%以内B、3%以上下がればC	年度末	B	校内暴力件数が数回あった。どれも友達との関わり方が上手くできないことが原因。大きないじめ問題はない。	B (12)、(13)、(14)の項目において、肯定回答が上下3%以内である。暴力件数は4件あった。いずれも男子のちょっかいの掛け合いから始まる喧嘩であった。	B ・生徒は前向きに学校生活を送っている気がする。生徒と教員の信頼関係はできている。不登校の要因はいろいろとあるが、教員とカウンセラー、教員間の情報共有ができており、復帰につながっていると思う。小学校も教科担任制が増えています。美原区の取組は先進的です。がんばってください。
		生徒理解の徹底と信頼関係の構築	行事の取り組みの中で信頼関係の構築を目指す。 生徒の気持ちを丁寧に聞き取り、生徒個々の立場を十分配慮した指導を徹底する。	・学校アンケート(生徒用) (30)行事に取り組むことでクラスがまとまると思う。 (31)自分のことを理解しようとしてくれる先生がいる。 ・校内暴力件数 年間の校内暴力件数0を目指す。	学校アンケートの2項目で70%以上であればA、そうでなければB、	年度末	B	どの行事も盛り上がり、担任との絆が深まったと考える。 教育相談で話を聞いて、トラブルを未然に防いでいる。	A (30)、(31)の項目において、肯定回答が70%を超えているので、Aと自己評価した。すべての行事で子どもたちの頑張る姿が見られた。	A ・不登校の生徒が減少していることがよかった。支援会議には課題があるものの、先生方が支援方法を意識されているということが、また次の気づきにつながるのではないかと思います。
		不登校の効果的な支援	心の教室を活用し、長欠生の登校日数を増加させる。 教育支援教室やフリースクール等を活用する。	・不登校生徒数 毎月報告している不登校状況調査において前年度と比較する。	不登校生徒数が前年度を下回っているればA、そうでなければB	年度末	B	不登校生徒数は昨年度と同じぐらいの人数であるが、改善できている生徒が数名いる。新規の生徒を出さないように考える。	A 12月時点の不登校数が昨年度よりも減少している。また、子どもたち週に1、2回の登校や教育支援教室に入室する努力をしている。	A ・思春期の人生の中で最もこころの揺れ動く時期、きめ細やかな対応には限度があるかと思いますが、とてもがんばっておられると思います。今後は専門職の配置の増加を制度的に改善されればと思います。
	支援教育	個に応じた特別支援教育の推進	・特別支援教育推進部会を学期に1回以上行う。 ・管理職出席のもと、支援が必要な生徒の情報交換を学期に1回行う。	会議実施の有無 学校アンケート(教員) (13)私は、日々の学校生活において、支援が必要な生徒の支援方法について意識し行動することができた。」	アンケートは昨年度より上がっているA、変わらない・下がっているB	年度末	B	学期に1回管理職等出席のもと会議は開催できているが、限られた時間の中で、効果的な支援について多くの生徒を取り上げ、話し合う難しさを感じた。会議の方法を改善し効果的な支援につなげる。	A (13)の項目において、昨年度「あてはまる」53%が今年度58%に上がっており、昨年度より良い結果となった。	A ・「自ら考えて正しい・・・育成」の所は、おそらく小学校での取組から中学校と連携して考えないといけないかなと思います。簡単に言うところ、学級活動の話合いの所の計画と内容です。その中で他者と「おりあい」をつけることの学習が積み上がってきていないことも中学での伸びをつくれないう原因ではないかも(勝手な私見ですが)なので、Bも仕方ないかなと思ってつけています。あとの項目も含め、学校の教育活動の中で、バランスよく取り組んでおられるのでしょうか。事象はいろいろと起こっていると思いますが、しっかりと進めておられると思います。
	小中一貫	グランドデザインをふまえた段差解消の取組み	★校区内児童生徒の「総合的な学力」の向上をめざした連携強化を行う。 ★小中相互の授業参観を行い、授業力向上につなげる。	学校アンケート(生徒用) (15)中学校に入学し、学習や学校のきまりで「こんなことに困った」「小学校はこうだったのに」と戸惑いを感じたことはない。」	昨年度アンケート結果の65%以上であればA、変わらない・65%よりも低い場合はB	年度末	B	美原区全体の小中合同研修を夏休みに行った。 オンラインで打ち合わせをしたり、小6の部活体験や保護者説明会を行う予定である。	A (15)の項目において、肯定回答が65%から71%に増加している。否定意見では、勉強面(テスト・提出物・授業)での違いがよく出ていた。	A

校長より(年度末) 「 確かな学び 」13年チャレンジテストの生徒アンケートでの肯定的回答の割合が、「授業中、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。」の項目で堺市平均より15%上回り、「授業中、PCを使って、学級の友だちと意見交換する場面が週1回以上ある。」の項目では、堺市平均より30%以上上回る結果を得た。これらのことより、本校が重点的に取り組んでいる「ICTを取り入れた協働的な学び」の充実が図れていると考える。家庭学習習慣は昨年同様、また、読解力の向上は向上したとの結果は出ているが、全国学力学習状況調査やチャレンジテストで、堺市平均に届いていない教科もある。一定成果の出たICTを活用して主体的・協働的に学習する地盤を基にして、知識・技能の確実な定着を図る取組みを実施し、学力向上を図ってきたい。 「 豊かな心・健やかな体 」LGBTQや同和問題の学習で、外部から専門の講師を招聘し、人権問題に真剣に向き合うことができた。また、道德では、外部から講師を招聘し教職員の研修を行い、基本的な部分から学び、そこでの学びを基本として、各教員の本気でいう道德の授業を実施することができた。その結果、生徒たちの行動や考えに変化が見えてきたと考える。 「 信頼関係を基盤にした生徒指導 」丁寧な生徒指導を、随時、根気強く行うことで、大きな問題に発展継続はしていないと考える。小中一貫教育においても、従来の中学校区の枠を越えた美原区全体での小中一貫指導を行うなど、美原区の強みを生かした一貫教育の実践を行うことができてきていると考える。				学校関係者評価者から(年度末) ・教職員の皆様方の働き方改革ができることから実践してください。働く時間を減らしましょう。現場が変わることが、教員を志望する学生を増やすことになります。 ・美原区全体で教育に取り組み、実践されているということがよくわかりました。 ・学び合うこと、本物との出会いなど美原中が当初から取り組んでおられたことが、変わらずに継承されていることが毎年確認できています。これからも続けていってほしいと思います。自分の考えを整理したり、まとめたりすることができるということは、今後の伸びしろに期待できることだと考えます。 ・管理職と、中心になる先生方の関係を基にした、学校運営のマネジメントがしっかり機能しているように感じます。			
--	--	--	--	--	--	--	--